

朝読書の期間は多くの利用者が訪れ、図書室がいつもより賑わっていました。朝読書が終わっても、ぜひ本を借りにきてくださいね。



1. 平成 30 年度 4、5 月の貸出数

学年	中1	中2	中3	高1	高2	高3	合計
4月	221	67	60	84	29	61	522
5月	215	40	51	46	11	35	398
今年度累計	436	107	111	130	40	96	920

4月～5月の個人貸出数ランキングは、1位 37冊（高3-2）、2位 22冊（中1-2）、3位 20冊（中1-1）、4位 19冊（中1-2）、5位 18冊（中1-2、中1-3）、7位 17冊（高1-3）です。

2. 世界でいちばん有名なウサギといえは？

ハリウッドで実写映画化されて話題になっている〈ピーターラビット〉。皆さんも小さい頃絵本で読んででしょうか。作者のビアトリクス・ポターは、絵本の売り上げをナショナル・トラストに寄付し、買い上げることによって保護するという保全運動を支援しました。現在、美しい湖水地方の景観が残っているのは、ポターのおかげでもあるのです。



図書室でも、ピーターラビットの絵本や、舞台となる湖水地方などについて本を読み、感想を書いてくれる人を募集したところ、中学生2名、高校生2名の応募がありました。いずれも甲乙つけがたい出来栄でした。投稿作品は館内の展示等にさせていただきます。（今回も校長先生がささやかなプレゼントを用意してくださいましたので、全員に進呈しました。）

ところで最近図書室でウサギの姿を見かけることがあります。詳細は言えません。探しに来てください！

3. 延滞に気を付けましょう

図書室の資料の返却期限は2週間（CD・DVDは1週間）です。中間考査・体育祭と続いたため、忘れてしまっていないですか？ 借りたものはきちんと期限内に返しましょう。次に借りたい人が待っています。

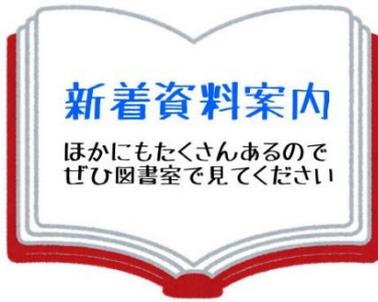
B1 玄関にある返却ポストに入れてもかまいません（ただし CD や DVD は壊れやすいため直接カウンターに持ってきてください）。



近く、督促状を出す予定です。

4. アカデメシア通信 mini

学校ウェブサイト内の「アカデメシア棟 図書室」というページの中で、「アカデメシア通信 mini」が読めます。図書館の日々の様子を写真つきで紹介しています。現在ひそかに人気の〈神社〉についても投稿があります。ぜひアクセスしてください。（図書室内にも調べ学習用のパソコンが3台あります。今年度から、届出用紙なしで自由に使えるようになっています）



『一〇五度』佐藤まどか あすなろ書房 (913.6/Sa85)

大木戸真は、祖父の影響でイス好きの、中学三年生。編入してきた学校で、同じようにイスに興味を持つ女子・梨々と知り合う。梨々は、堂々と制服のストラックスを履く変わり者だが、将来の夢に向けて日々努力していて、技術もある。二人は極秘で、中学生の応募はまずない「全国学生チェアデザインコンペ」に挑戦することにした。

通常、イスの背もたれは一〇五度。二人の作るイスは無事に完成するのか？



『太陽と月の大地』コンチャ・ロペス＝ナルバエス 福音館書店 (963/L88)



舞台は十六世紀、スペインのグラナダ。それまでイスラム教徒が支配していた土地にキリスト教徒が入植し、改宗をすすめていきます。改宗した人々はモリスコと呼ばれ、民族や宗教の違いが、数々の対立を生み出すことに。仲良しの幼なじみだった、モリスコの農夫の息子・エルナンドと、キリスト教徒の伯爵の娘・マリアの仲も引き裂かれていきます……。

スペインで読み継がれてきた児童文学が、初めて翻訳されました。

『ヴェルサイユ宮殿』クリストフ・ファン他 筑摩書房 (523.35/F36)

ヴェルサイユ宮殿の内部を、美しい写真で紹介しています。鏡の回廊や王妃の寝室から、隠し扉やオペラ舞台の裏側など、装飾の細部も写されています。ちょっと大きめで重たい本ですが、見ごたえと満足感は保証します！



『声優 声の職人』森川智之

岩波新書 1714 (771.7/Mo51)

声フェチの方は、いますか？ この本は、アニメから洋画まで、様々な役をこなすベテラン声優さんが書いています。声優とは何か、必要な力と何か。「声」だけで表現し、人々を魅せてきた役者魂に、ぜひ触れてみてください。

『日本人のための声よくなる「舌力」のつくり方』篠原さなえ

講談社ブルーバックス 2042 (491.36/SH67)

日常で筋力トレーニングの必要性を感じることはあっても、舌を鍛えるという発想はあまりないのでは。日本語はそれほど舌を動かさなくても発音できてしまうので、日本人は舌の筋力を使わないままのことが多いそうです。この舌の力を身につけると、外国語の発音もしやすくなったり、日本語においても滑舌がよくなったり、さらには健康に役立つことも。興味のある人は読んでみてください。



『「言葉にできる」は武器になる。』梅田悟司

日本経済新聞出版社 (141.5/U46)

考えるということは、内なる言葉を発しているということ——言葉を〈外に向かう言葉〉〈内なる言葉〉という概念で捉え、〈内なる言葉〉をすくいあげる方法を丁寧に示しています。最近論述問題などを課されることが多くなりましたが、自分の言葉を発するということは、もやもやしたものをすっきりさせる、ひとつの手段なのだな、と思いました。

